発行年月：2021年（令和3）3月　作成：特定非営利活動法人 うらおそい歴史ガイド友の会　発行：浦添市教育委員会

うらおそい歴史新聞

第61号

前田高地戦跡 巡り感想文

6期生　東内原　克憲

先日（3月14日）うらおそい歴史ガイド友の会主催による平和学習の一環として「前田高地の戦跡巡り」が行われた。毎回、好評である。今回はコロナ禍の中、人員を50名に制限して開催。6班に分けて出発した。私の1班は（粟森・津波古・東内原）の3名で案内した。ポイントは①陣地壕、日本軍は前田高地の地形を利用して陣地を構築。②慶良間の見える丘、最初の米軍上陸地点、集団死③浦和の塔、前田高地を中心に市内で散華した軍人、民間人の慰霊の塔④グスク展望台西海岸、米軍の上陸、ハクソーリッチなど案内した。前半は東内原ガイド、後半は津波古ガイド、補足を粟森さんにと役割分担した。ちなみに、前田高地は沖縄戦の天王山として日米両軍が死闘を繰り広げた。空爆、艦砲射撃、戦車攻撃、白兵戦の総力戦であった。そこでの戦いが戦況を左右した。ここを突破されると日本軍の司令部のある首里に一気に迫るからである。日本軍としては絶対に死守しなければならなかった。大本営からも「前田高地を死守せよ」との命令がでた。血みどろの戦いが繰り広げられ、双方に膨大の数の死傷者を出す。今も戦争の爪痕が残る壕やカー、慰霊碑などを案内した。体験者・外間守善氏の手記に地獄絵図であったとのべている。戦争は残酷で、卑劣で人間が人間でなくなる人の殺し合いだ。いかなることがあっても戦争を起こしてはならない。

戦跡巡りをするにあたり、ガイドとして如何に戦争の残酷さ悲惨さをリアルに伝えるか、平和の尊さをポイントに説明した。次回はもっとガイドとして自らを高め、スキルアップし、知識、話術を身に着けて臨みたい。

浦添、歴史の背骨を歩く Ⅱ

浦添グスク正殿はどっち向き？

浦添グスク台上の展望台付近に「正殿跡？」と書かれた、浦添市教育委員会が設置した案内板があるのをご存じだろうか。発掘調査により石敷きが見つかり、正殿の跡ではないかと表示されている。この案内板が立った時、無性に嬉しかった。それは、土のなかで眠っていた遺物たちが、失われてしまった歴史や文化を静かに確実に語り初める時が来たと感じたからだ。

そして、正殿はどっちを向いて建っていたのか、そんな疑問も膨らんでくる。

浦添グスクが拡大整備され現在の大きさになったのは一四世紀といわれ、浦添丘陵の尾根台上に建つ正殿からは、東シナ海と太平洋の津々浦々を見渡すことができる。斜面を縫う二重三重の城壁に囲まれる容姿は、王城の名に相応しい。しかし薩摩侵攻、沖縄戦の戦火にまみれ、戦後には建築資材の採石現場となった。グスクの地形は大きく変わり、拝所や遺跡、遺物の多くが失われた。グスク台上の黄色い柵の後方空間に城壁があり拝所があり、正殿の痕跡も残っていたのだ。

では、高麗瓦や鬼瓦を乗せた時代もある正殿は、どっちを向いていたのか？

参考になるのは、正殿の向きを三パターンで試みた浦添市教育委員会の資料（史跡、浦添城跡整備基本計画書）だ。正殿の向きを御庭との関係から考察している。御庭は、殿とその北側から出土したコーラル敷き（粉状の琉球石灰岩を敷く）を合わせ、一辺が約四〇mの台形状の部分とする。また正殿近辺にあった火ヌ神（ウイーヌトングヮー）の位置にも注目したい。

① 西向きの正殿。ほぼ西を向く里道を軸にグスクに入る。約四〇mの縦長の御庭に至る。案内板後方に正殿があり、正殿は火ヌ神を含む。

②南西向きの正殿。殿の礼拝方位（北向き）を重視。旧里道からカガンウカー後方へ出て、石積みに沿い横長の御庭に至る。北側に崖が迫り敷地には多少の限界がある。火ヌ神は正殿の右隣。

③ほぼ西向きの正殿。尾根を軸にとる。シーマヌウタキ後方からグスクへ入り、下之御庭（シモノトングヮー＝ディグガマ）を抜け御庭に至る。火ヌ神は正殿の左側後方。

ここにいう火ヌ神は、家庭のでも地頭のでもなく、首里城「おせんみこちゃ」の火ヌ神に相当すると捉えると、疑問は妄想へとさらに膨らんでくる。

浦添グスクの縄張りは南北に短く東西に長い。東側ほど幅が狭くなるが、戦後はさらにせばまり、現在は立入禁止区域となっている。この区域にはコーグスク、ナンジャムイクガニムイ（消失）の主要な拝所があり、多量の鉄滓が出土した場所がある。

また、浦添ようどれと正殿の位置の関連性をみてみたい。ようどれの中御門は久高島から昇る冬至の朝日が差し込むように設計されている。安里進先生の説を引用すれば、太陽の子英祖王の血統を継がない王統の、王権を正当なものとして可視化する機能といえる。冬至は季節の大きな節目であり、昔は正月であったという。では太陽可視化の機能は、ようどれだけだったのだろうか。ようどれ改修時にこの機能を設置したなら、久高島を望むことのできる正殿に用いないはずがない。

莫大な費用と年月をかけて王権の可視化を計ったのはだれか。察度王が冬至の儀式を行ったと『球陽』にある。英祖王統を引き継いだ察度王が、玉座に可視化の機能を用意しても不思議ではない。

久高島に昇る冬至の陽光は、王座を通り中御門に差し込む。今年は察度王生誕七百年に当たるようだ。東を背にした王座の察度に花をもたせたい。（岡島）

当、友の会は、浦添グスクや浦添ようどれを巡回しています。簡単な説明や道案内等も行いますので、ガイドの名札をご認のうえお気軽にお声かけください。

浦添市教育委員会文化財課　098-876-1234（内線6211～3）

ご利用案内

○浦添グスク・ようどれ館

国指定史跡「浦添城跡」のガイダンス施設です。浦添グスクと浦添ようどれの発掘調査での出土品や戦前の写真パネルなどを展示しています。

【開館時間】午前9時～午後5時
【入館料】
大人（高校生以上）100円
小人（小中学生）　50円
※市内小・中学生は無料
【休館日】
月曜日（祝日は開館）・年末年始
【住所】〒901-2103
沖縄県浦添市仲間2-53-1
【電話】098-874-9345
【アクセス】
琉球バス交通　牧港線（55番）
仲間バス停から徒歩5分

【浦添グスク・ようどれ館】
浦添ようどれ墓室（西室）の原寸大の模型がみどころ。館内は、NPO法人うらおそい歴史ガイドが展示の解説も担当します。駐車場も完備しています

○浦添大公園南エントランス展示コーナー

浦添グスクの南側入口にある県営公園の施設です。浦添グスクの模型のほか、グスクを紹介するパネルや出土品のレプリカを展示しています。入場無料ですので、お気軽にお訪ね下さい。

【開館時間】午前9時～午後5時
【入館料】無料
【休館日】
月曜日（祝日は開館）・年末年始
【住所】〒901-2103
沖縄県浦添市仲間2-53
【電話】098-876-3555
【アクセス】
琉球バス交通　56系統
浦添小学校前バス停から徒歩5分

【浦添大公園南エントランス展示コーナー】
施設の中には「うらおそい歴史ガイド」が解説員としていますので、解説をご希望の方は気軽に声をかけてください。駐車場も完備しています（バス対応可）。

○浦添市歴史にふれる館

浦添の遺跡の出土品や民具を収蔵・展示している施設です。展示室では、縄文時代の土器から、戦前まで実際に使われていた道具などを展示しており、浦添の歴史を学習することができます。

【開館時間】午前9時30分～午後5時
（入館は16時30分まで）
【入館料】無料
【休館日】土日・祝祭日（慰霊の日）・年末年始
【住所】〒901-2134
沖縄県浦添市港川512-11
【電話】098-876-1234
内線（6216・6217）
文化課文化財係まで
【アクセス】
琉球バス交通　20系統他
第一牧港バス停から徒歩15分

【浦添市歴史にふれる館（やかた）】
平成28年2月にオープンした文化財の収蔵展示施設。収蔵室の一部も公開しています。駐車場も完備しています。

○うらそえ歴史ガイド ツアー随時受付中です！

浦添グスクをはじめとした、市内の史跡や歴史スポットを有料でガイドします。

料金　ガイド1名当り（20名まで対応可）
1時間　1，500円／2時間　3，000円

団体でのご利用や、コースや時間などは相談に応じます。お気軽にご相談下さい。

申込先　浦添グスク・ようどれ館
電　話　098-874-9345

浦添市歴史にふれる館の地図

※仲間バス停から徒歩5分

浦添グスク・ようどれ館と浦添大公園南エントランス展示コーナーの地図